

参考

(ブラジル)

(参考)ブラジルの農林水産業概況①

- 人口は、2億1433万人。広大な国土、温暖な気候、多くの水資源を有する世界有数の農業生産国。また耕地面積拡大の余地が大きく、海外から投資対象としても注目。
- 農産物の輸出大国であり、農産物輸出額は約9兆円(2020年)。



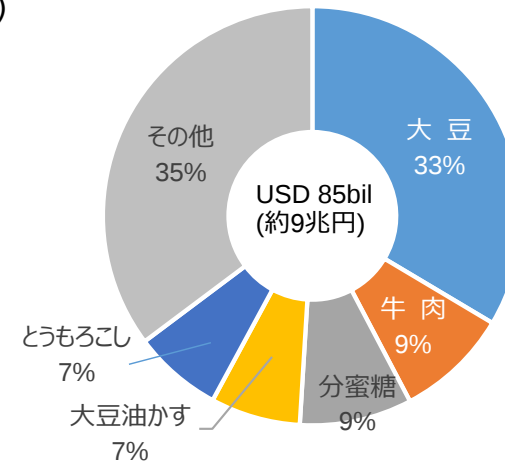
・農林水産物貿易の概況 (2020年)

・主要農産物の生産状況

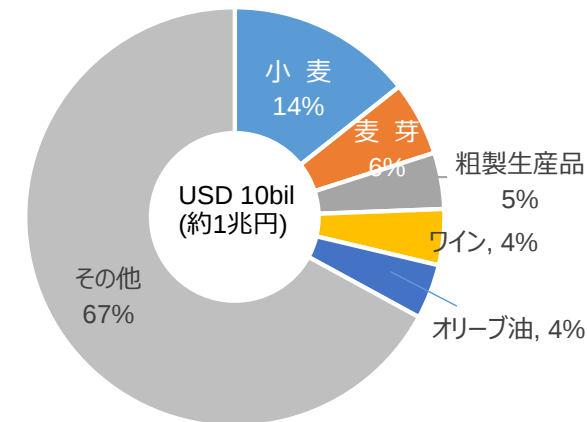
(単位:万トン)

	2017	2018	2019	2020	2021
さとうきび	75,865	74,706	75,347	75,712	71,566
大豆	11,473	11,791	11,432	12,180	13,494
とうもろこし	9,791	8,237	10,113	10,396	8,846
キャッサバ	1,850	1,788	1,759	1,821	1,810
オレンジ	1,749	1,684	1,709	1,671	1,621
コメ(粳)	1,246	1,181	1,037	1,109	1,166
コーヒー(生豆)	268	355	301	370	299
生乳(牛)	3,431	3,493	3,597	3,651	3,636
鶏肉	1,361	1,351	1,352	1,379	1,464
牛肉	955	990	1,020	998	975

輸出(伯→世界)

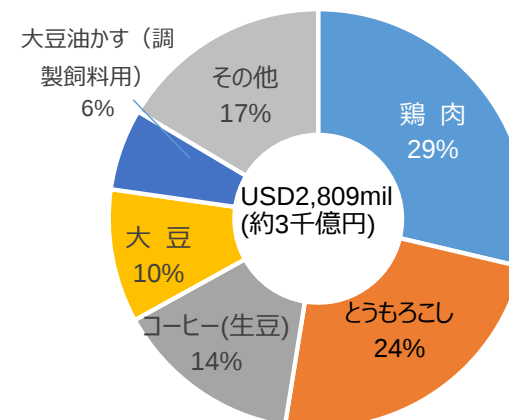


輸入(世界→伯)

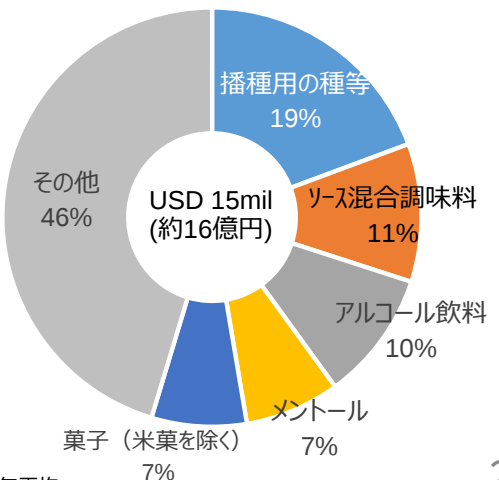


・我が国との農林水産物貿易 (2020年)

輸入(伯→日本)



輸出(日本→伯)



資料:農林水産省「農林水産業概況」

注:為替は2020年のTTM年平均。

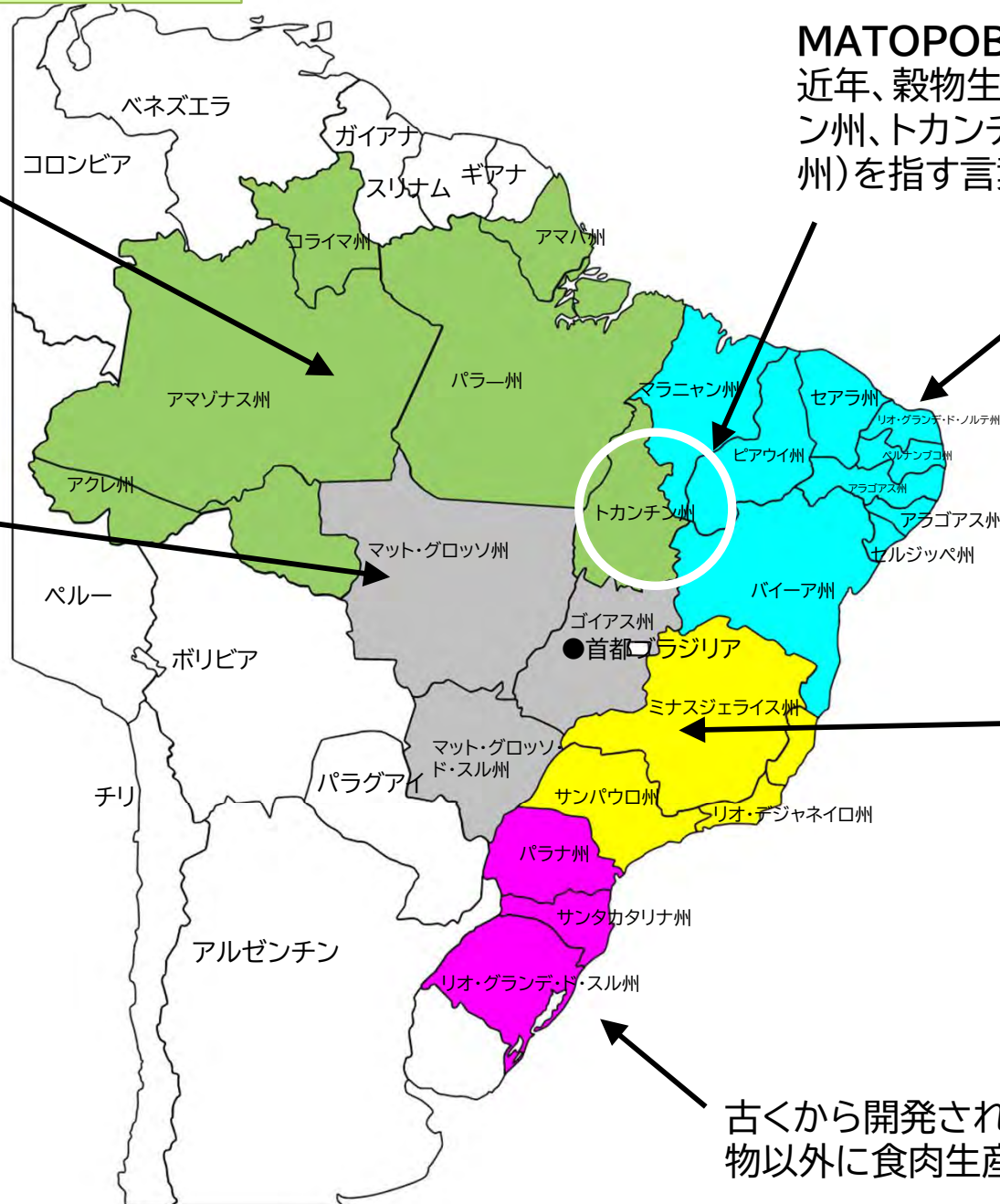
ブラジルの地域区分と農業

アマゾン熱帯雨林が広がり新規開発を抑制。アグロフォレストリーが注目(例:パラ州トメアス)

マツト・グロッソ州

セラードが広く分布し、農業生産の中心地

北部	緑色
北東部	青色
南東部	黄色
南部	ピンク色
中西部	灰色



MATOPABA(マトピバ)地域

近年、穀物生産の拡大が著しい4州(マランヤン州、トカンチンス州、ピアウイ州、バイーア州)を指す言葉。

半乾燥地帯が広がり、農業に不適。近年、灌漑による果樹栽培が発達。西部のセラードで大規模農業

古くからコーヒー、サトウキビを栽培。ミナスジェライス州は酪農の中心地。

古くから開発された農業地帯。穀物以外に食肉生産の中心地。

(参考)ブラジルのセラード地帯に広がる円形農場

- ブラジルでは、広大な国土や豊富な水資源など穀物生産に適した条件が揃っており、マッドグロッセ州に広がるセラード地帯を中心とした作付け面積の増加が生産拡大をけん引している。
- 同地帯では、センターピボット法と呼ばれる灌漑農法が普及しており、直径約1キロメートルにも及ぶ円形農場の中心に設置されたスプリンクラーがタイヤのついたアームで回転しながら散水を行う。

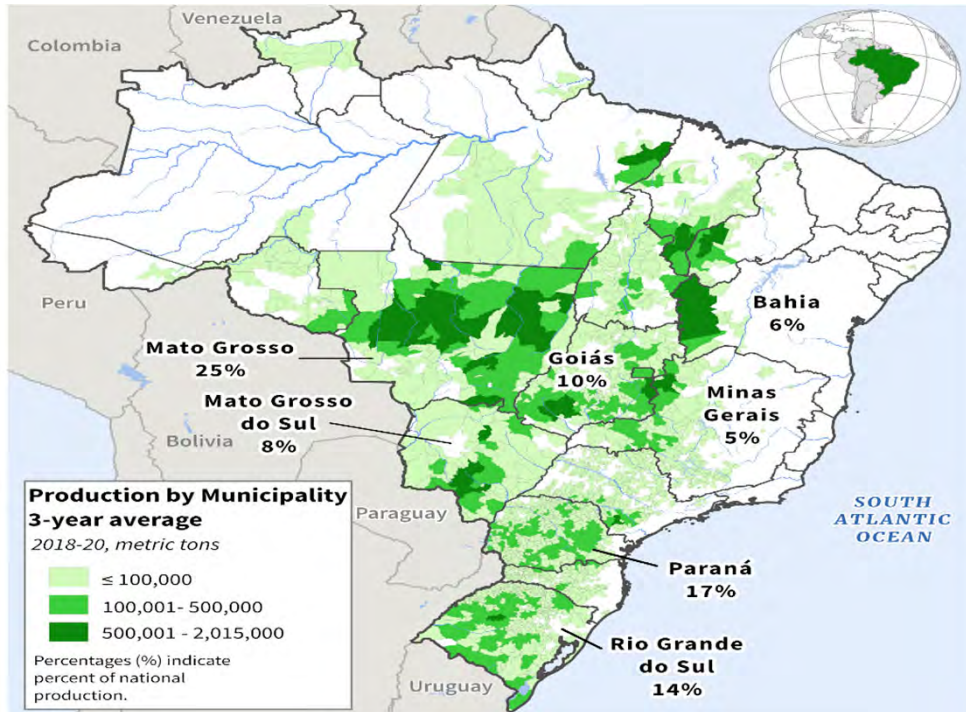
直径約1km



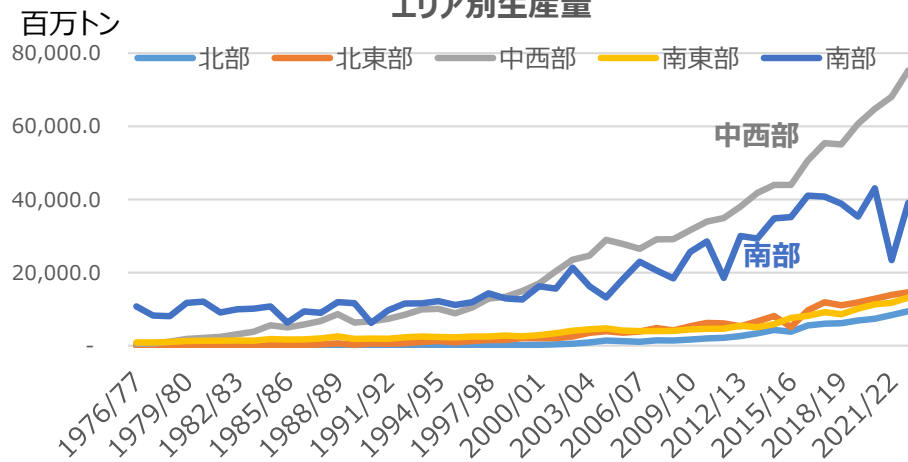
(参考)ブラジルの農林水産概況③

- 大豆・とうもろこしの生産は、伝統的な南部の生産地から、セラード開発等により中西部の生産が増加。
- 一方、流通拠点・消費地域・輸出港が南部に集中しているため、北部で生産された農産物の約半分が、南部に輸送された上で消費、輸出されている。

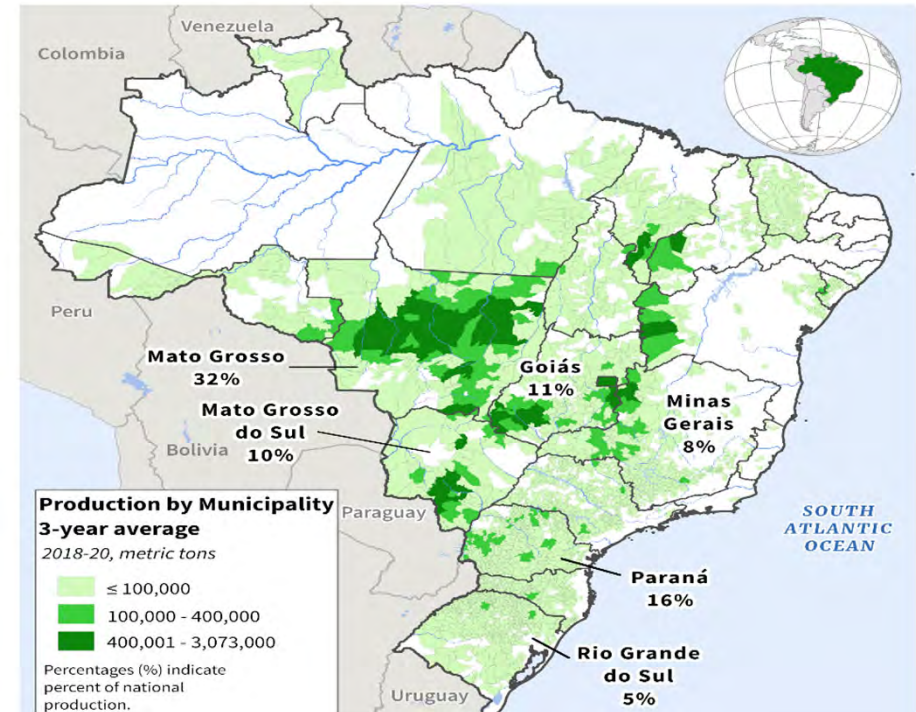
大豆



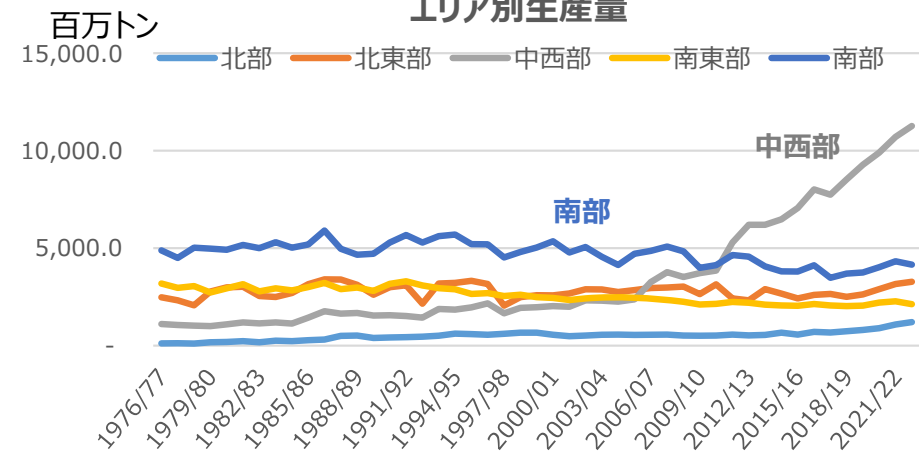
エリア別生産量



とうもろこし

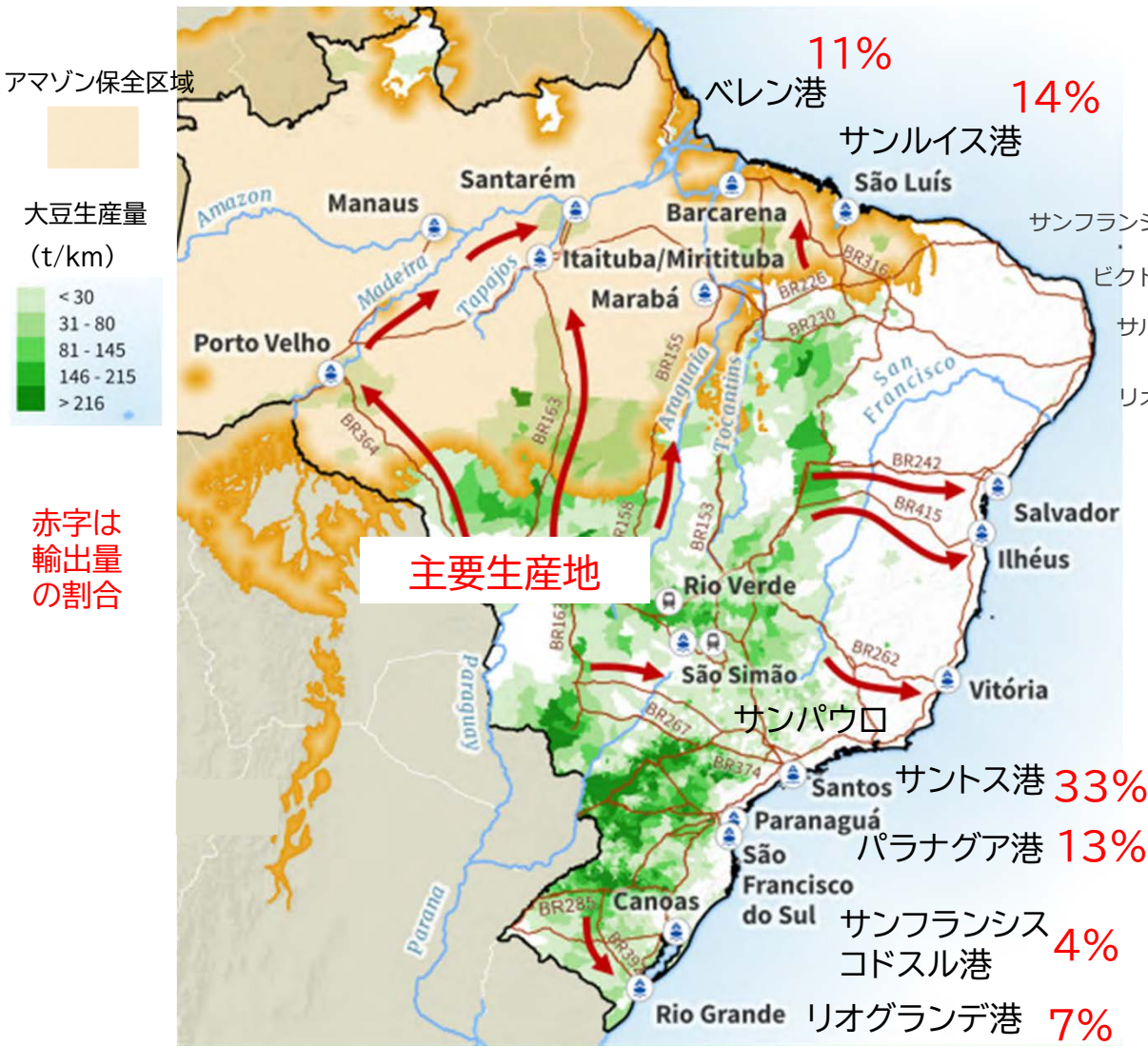


エリア別生産量

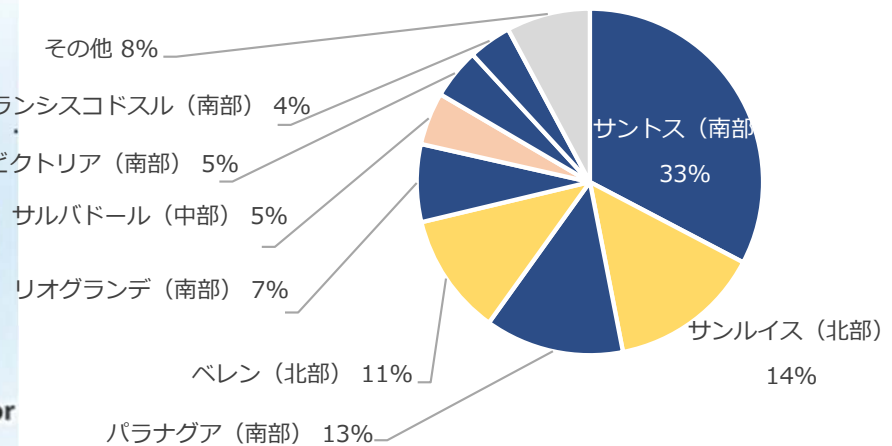


(参考)ブラジルの輸送経路

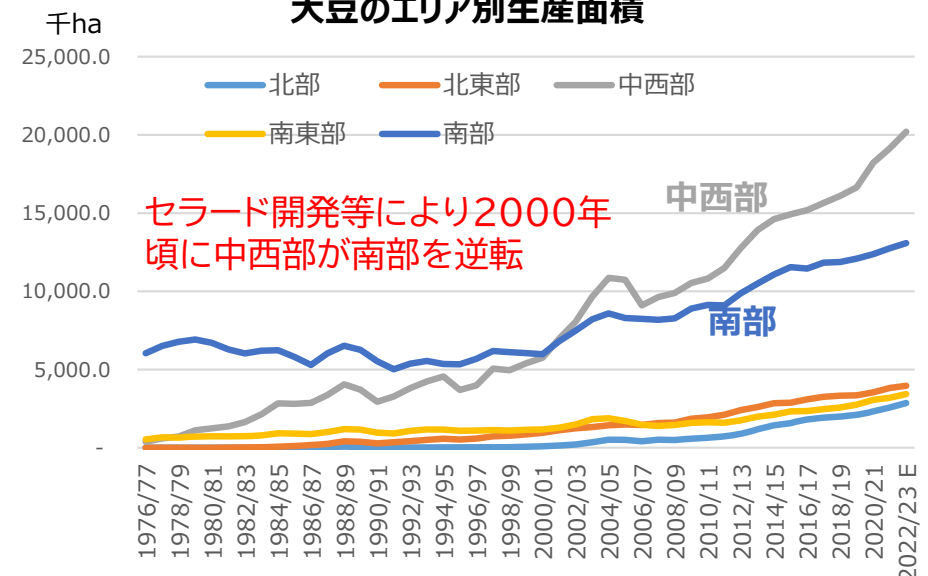
- ブラジルの農業開発は南部から内陸へ進み、今後開発が進むマツト・グロッソ州北部やマトピバ地域は南部の主要輸出港から遠い。
- そのような中、2020年に国道163号線の舗装が完工し、2021年には南北鉄道の一部路線の運行が開始するなど、インフラ状況も徐々に改善しつつある。



大豆の輸出港別の輸出量



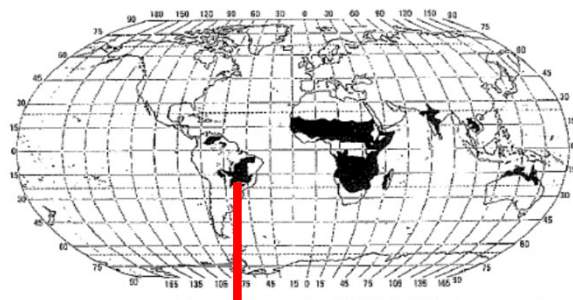
大豆のエリア別生産面積



(参考)日・ブラジルセラード農業開発関連事業:事業概要

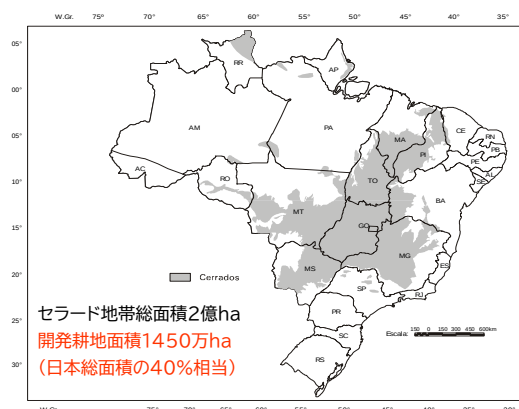
- 日ブラジル協力事業の最優良事例として、ODA事業による「日伯セラード農業開発協力事業 (PRODECER)」がある。(※セラード:ブラジル中央部のサバンナ気候地域にみられる植生)
- 同事業は第1期から第3期((1979~2001年)まで行われ、技術協力と資金協力の両側面からの支援により、ブラジル農業の発展に大きく貢献。

世界の熱帯サバンナ分布図(20億ha)



サバンナ農業開発先駆例

ブラジル・セラード地帯農業開発

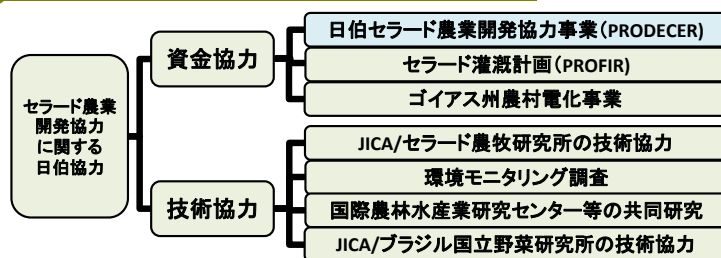


ブラジル・セラード(サバンナ)地帯の原景観

経緯・目的

- 米国の大豆輸出停止を契機に、昭和49年の田中総理とガイゼル大統領との共同声明及び昭和51年の閣議了解に基づき、日伯両国官民連携の国家プロジェクトとして実施。
- ブラジルにおける食料増産、地域開発の推進、世界の食料供給の増大と両国の経済協力関係の促進等が目的。

セラード農業開発に関する日伯協力



PRODECER事業概要

セラード地域の農業開発(入植者717戸が、農地造成、灌漑整備等を実施し34.5万ha(東京都面積の1.6倍)を開拓)に対して、融資を実施。

(JICA開発投融資、OECF(現JICA)海外投融資、民間銀行)

①総事業費:約684億円(うちODA279億円)

②事業期間:1979年~2001年

(第1期事業~第3期事業)

【出典:日伯セラード農業開発協力事業合同評価調査総合報告書他】

事業成果

●作物栽培に不適とされていたセラード地域で①土壌改良、②適正作物の選定と育種③組合育成、④入植地造成、⑤環境保全技術、⑥民間との連携推進等を行い、熱帯サバンナ地域における農業開発の草分け的役割を果たした。

●セラード地帯の穀物増産
生産量が大幅に増大
米国に並ぶ大豆輸出国へ成長
世界の食料需給の安定化に貢献

●セラード地帯の農業生産拡大・多様化により、アグリビジネス(穀物以外にも青果物、畜産、燃料作物など)が進展。

●ブラジルの地域開発及び環境保全にも大きな貢献。



広大な大豆畑

参考

(アルゼンチン)

(参考)アルゼンチンの農林水産業概況

- 人口は4,733万人(2022年)。パンパと呼ばれる草原地域では、穀物及び油糧種子の不耕起栽培が行われている。主要農産物は、とうもろこし、大豆、小麦、牛肉等。我が国への輸出では、飼料 穀物等やエビ等が多い。
- アルゼンチンでは、財政赤字補填のため主要農産物に輸出税を賦課しており、また、国内供給を確保するため、とうもろこし、小麦には輸出上限数量も設定している。



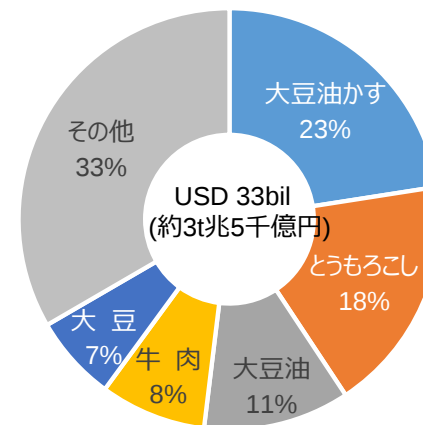
・主要農産物の生産状況

(単位:万トン)

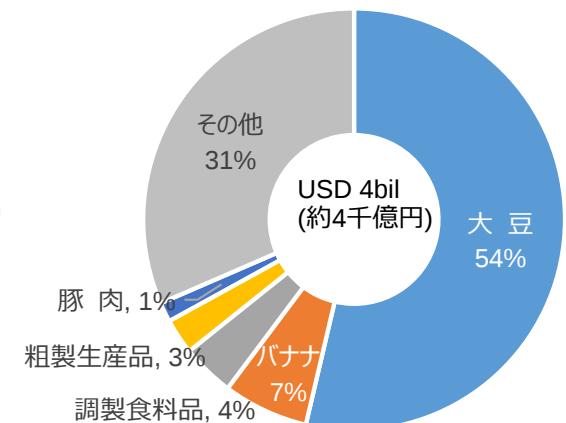
	2017	2018	2019	2020	2021
とうもろこし	4,948	4,346	5,686	5,840	6,053
大豆	5,497	3,779	5,526	4,880	4,622
小麦	1,840	1,852	1,946	1,978	1,764
さとうきび	1,890	1,856	1,863	1,870	1,863
大麦	374	506	378	448	404
こうりゃん	253	156	160	183	332
ひまわりの種	355	354	383	323	343
ぶどう	197	257	252	206	224
じゃがいも	246	251	260	288	295
レモン・ライム	168	199	168	115	138
生乳(牛)	1,010	1,053	1,034	1,111	1,155
牛肉	284	307	314	317	298
鶏肉	212	207	220	222	229

・農林水産物貿易の概況 (2020年)

輸出 (アルゼンチン→世界)

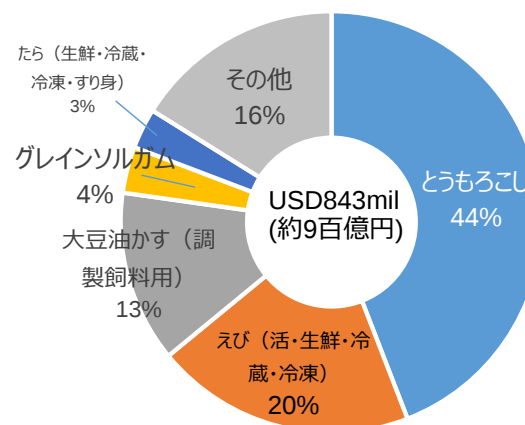


輸入 (世界→アルゼンチン)

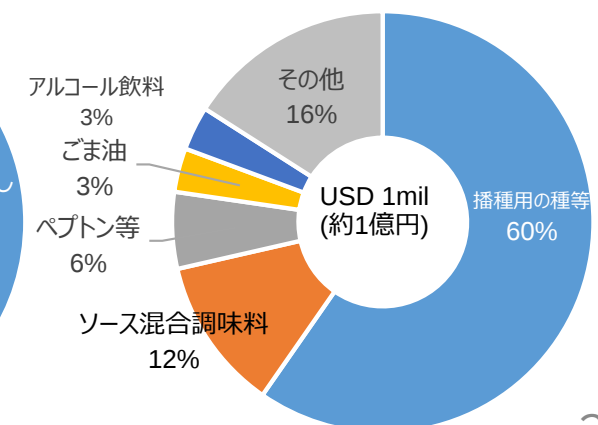


・我が国との農林水産物貿易 (2020年)

輸入 (アルゼンチン→日本)



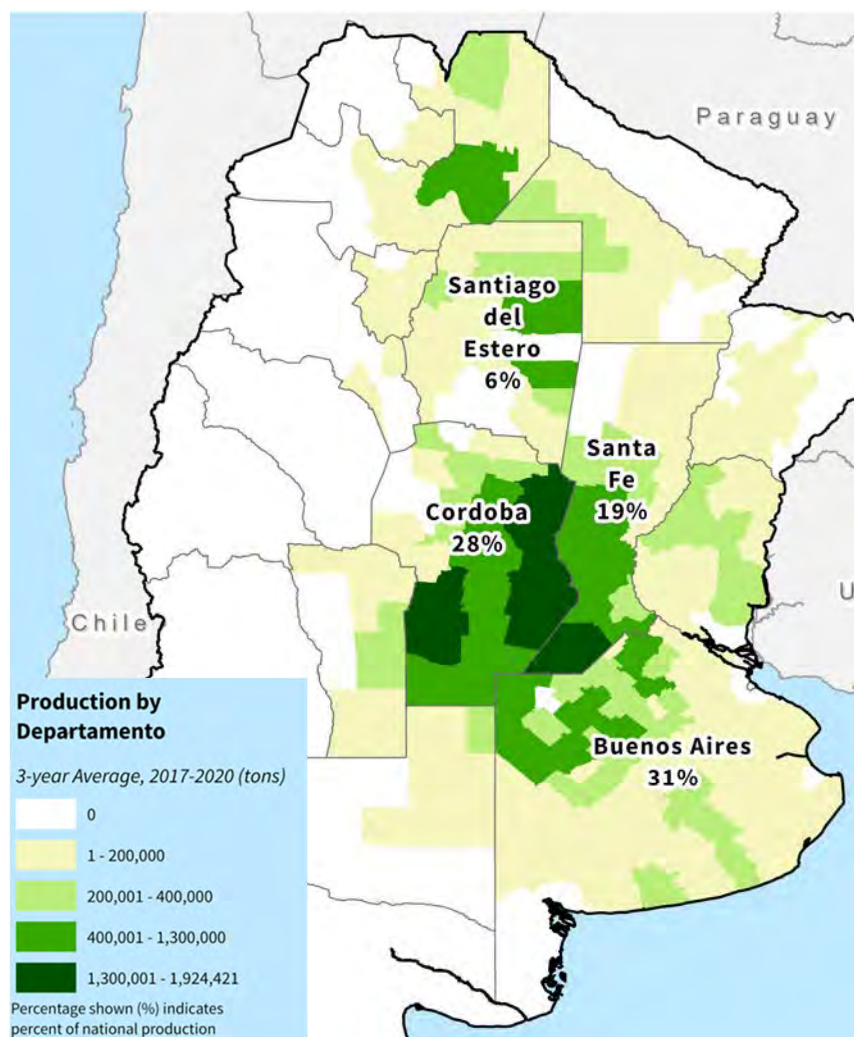
輸出 (日本→アルゼンチン)



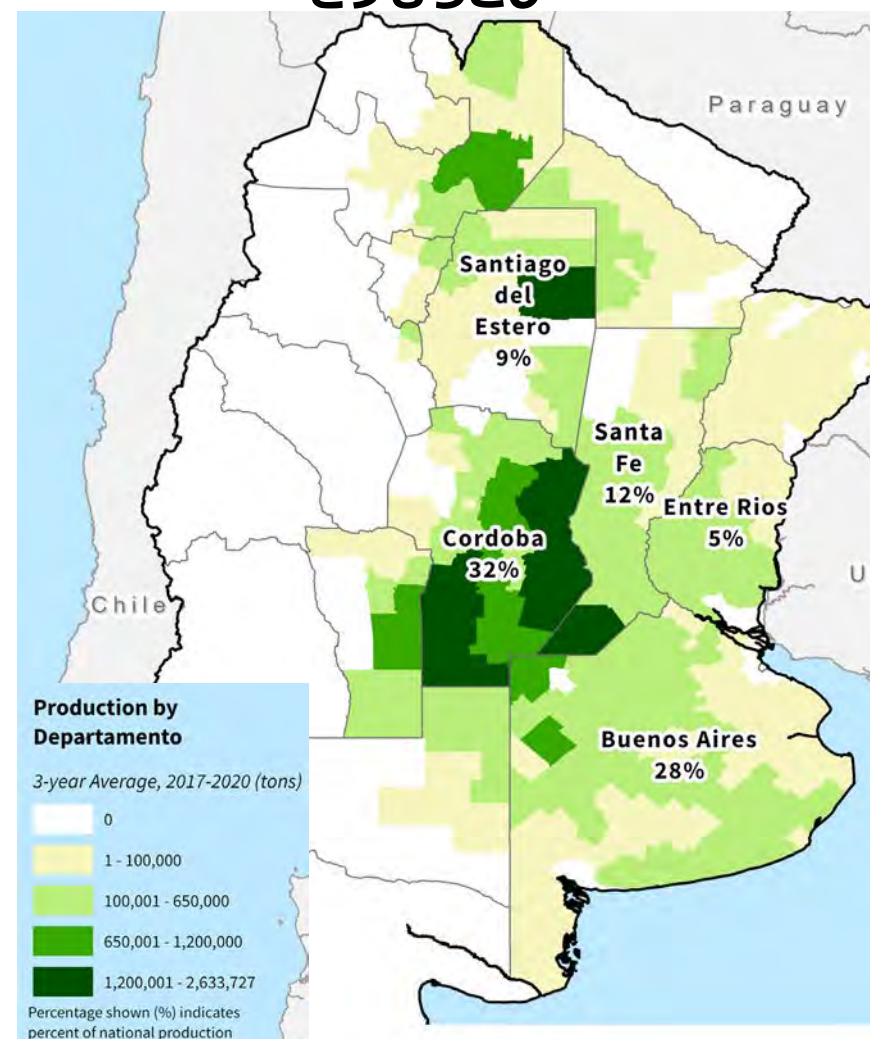
(参考)アルゼンチンの主要生産地

- 農地は国土の約半分を占めており、特に国土の中央部に位置するパンパ地域は、温暖な気候、平坦な土地、肥沃な土壌等農業に適した環境を有している。
- 大豆生産については、パンパ地域を中心にグローバル企業による積極的な投資や技術革新(不耕起栽培、遺伝子組み換え等)が進み、収穫面積の拡大、生産コストの低下、単収の増加が図られた。

大豆

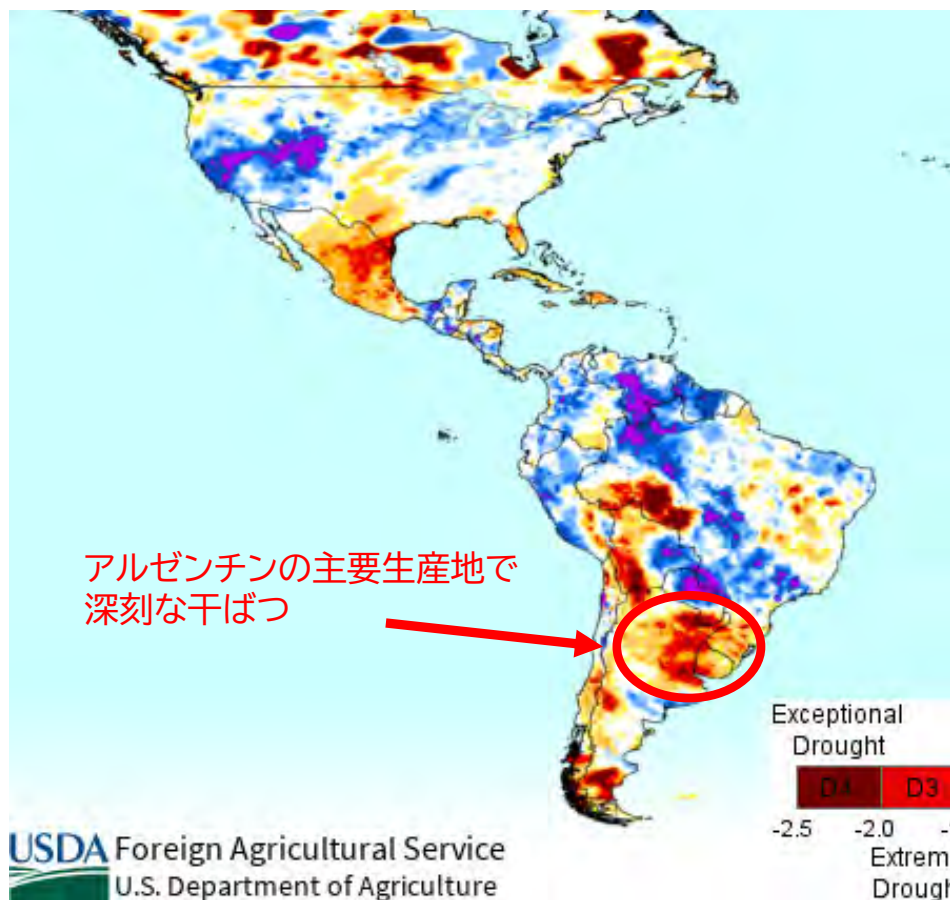


とうもろこし



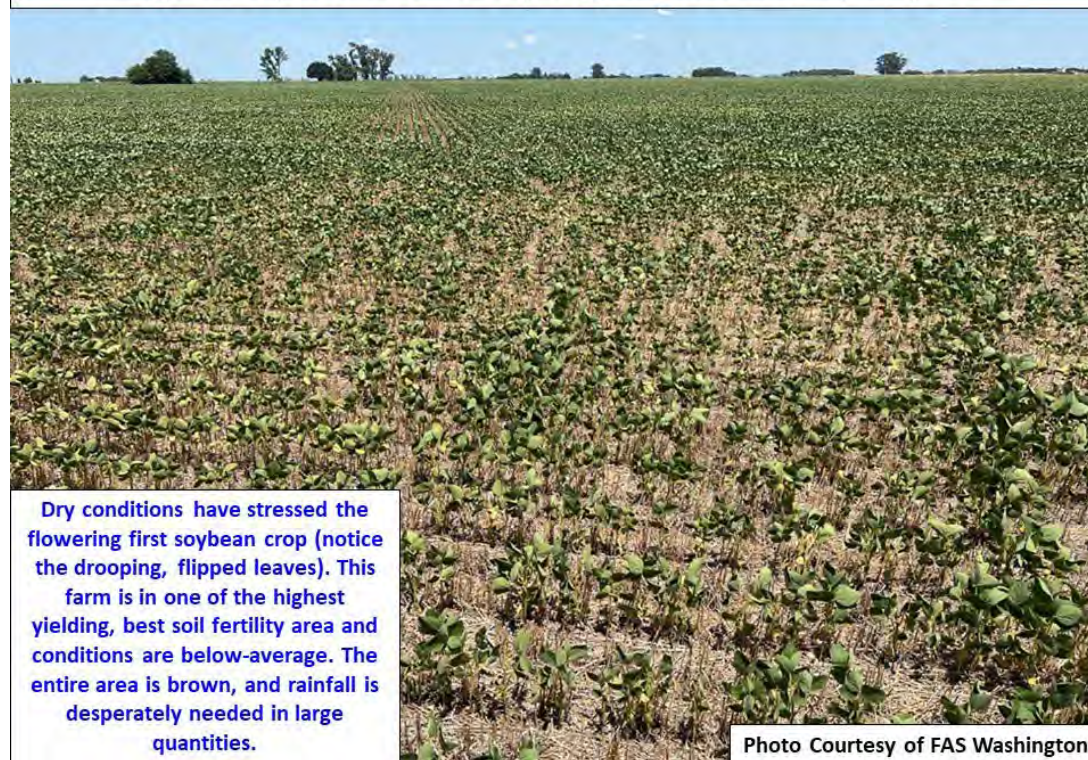
(参考)アルゼンチンの干ばつ

- 近年、ラニーニャ現象により、降雨量不足という問題に直面しており、ブラジル南部およびアルゼンチン北部における穀物生産に影響。
- 特に、2022/2023年度の夏季は過去60年間で最悪の干ばつと言われており、降水量不足で穀物の主要輸送路であるパラナ川の水位が大きく低下し、穀物生産自体も大きく減産する見通し。



アルゼンチンの主要生産地で
深刻な干ばつ

Pergamino, Buenos Aires, Argentina January 19, 2023



乾燥により大豆の開花にストレスを与えている（写真は、葉が落ちて裏返しになる様子）。当該農場は、生産性が高く、最も肥沃な土地であるが、生育条件は平年を下回った。エリア全体は茶色く、大量の降雨が相当に必要な状況。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2023 年 3 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 月報で一番関心／参考にしている項目のうち、特別分析トピックを選択された場合、特に関心があったテーマがあれば教えてください。
- 7 最近で最も興味を引いた／役立った記事は何ですか。（自由記載）
- 8 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
中国の需要・輸入動向
- 9 特別分析トピックで取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
- 10 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）



ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html